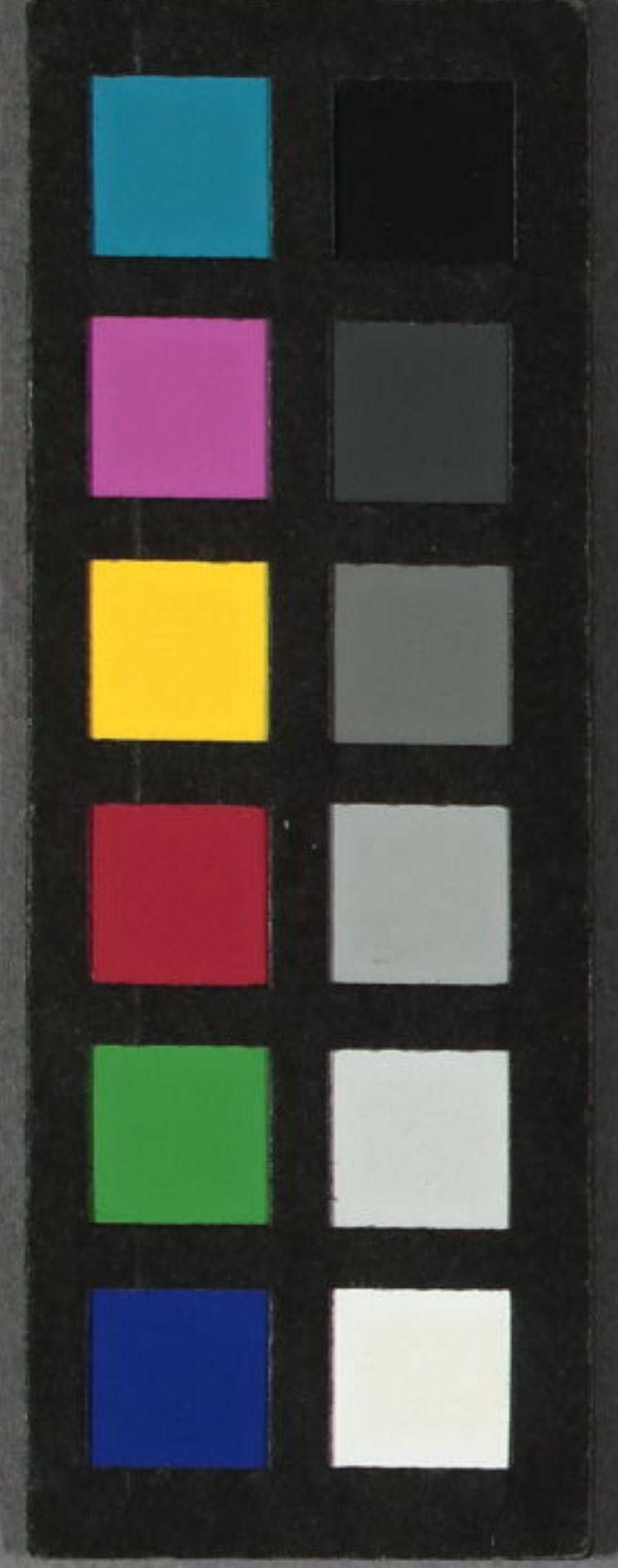


續藤栗毛四編 七上

^ 13

3286

25



門へ13  
號 3286  
卷 25

昭和十六年一月十一日  
尼野貴英氏贈

本清

續藤東小七四扇叙

七平しちへい通とほ行ゆきせししし

御園所ごゑんじよをを省しやうすす江え江え江え江え

かかのの美み家け糸いと道みちはは糸いと糸いと糸いと

其その糸いと輕かろ舟ふね深ふか舟ふねのの日ひ跡あとはは糸いと糸いと

清きよ糸いとのの日ひ跡あとはは糸いと糸いと糸いと糸いと

有利ありよりたふし舊帽ふるぼう子こ多た紀きとと反はんし

徳とく者ものややくくかるかるとと出でしし年としししはは徳とく

月つき廿ふた九こ日にちのの欠か了りしし也やもも沙さ合あをを受うけけりり

五い編へん下した段だんにに五ご神かみくくららとと返へん傍ばうのの物もの受うけけりり

計けい台たい字じののらら後ご以いててはは自みづかららのの事ことををししててはは福ふく

昔むかしのの奇き事ことももななららずずととももななままとと取とりりててはは之これ

大おほなるなる事こともも角かく斗とののいいににしし律りつ 同上大おほなるなるのの

欠かいいややくくららとと返へん傍ばうのの物もの受うけけりり かり

かかららとと返へん傍ばうのの人ひととと道みちはは何なにかかのの

おおととししののけけららももははたたふふもも弱じやくととななせせしし

公こうままのの上うへににししたたりり みは中ちゆう小せうのの事ことををししててはは海うみのの

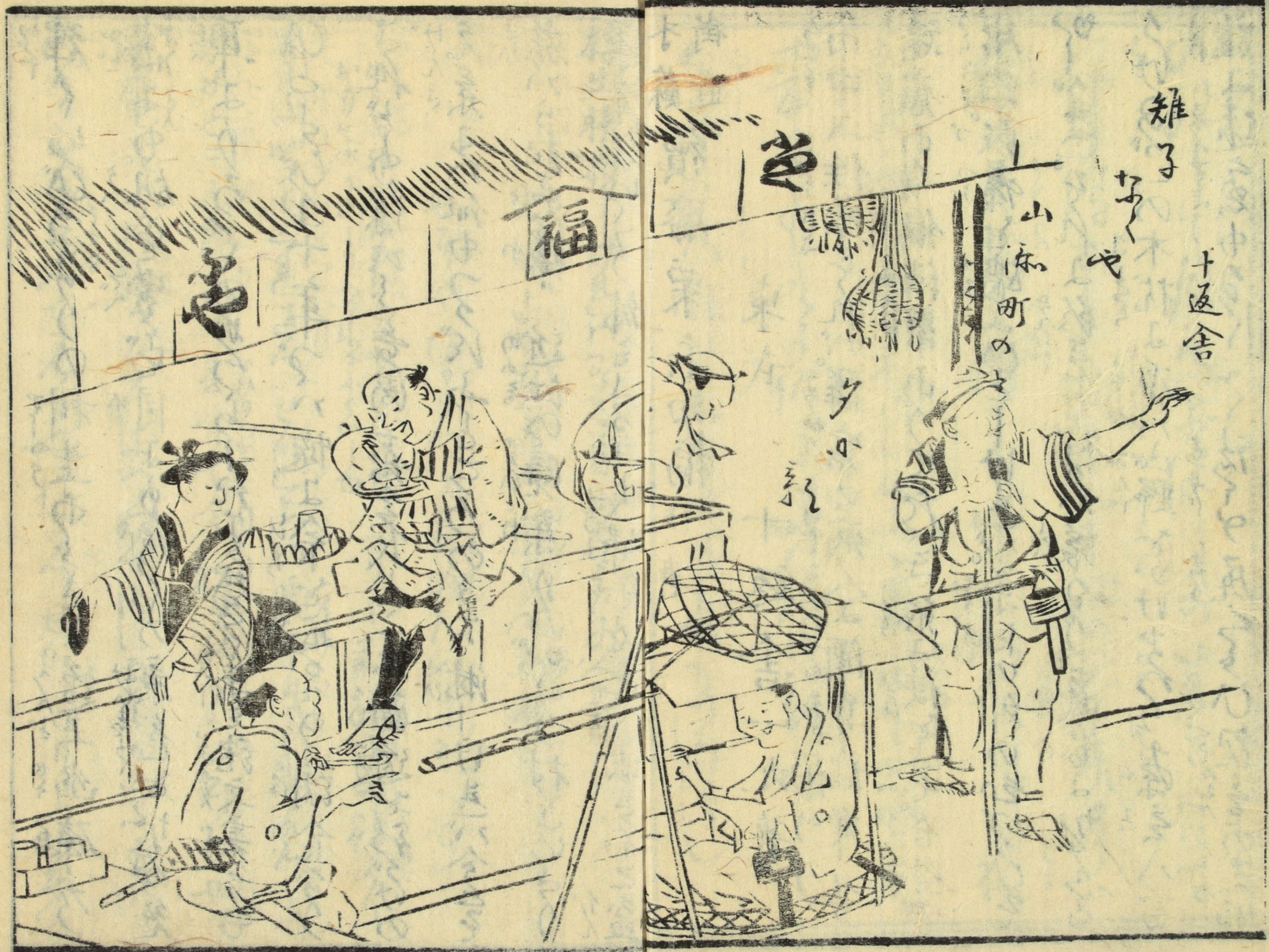
其その小せう御ご徳とく伏ふく之これのの好このむむののももももととななせせしし

の<sup>ま</sup>く<sup>り</sup>て<sup>る</sup>月<sup>づ</sup>も<sup>も</sup>流<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>を<sup>も</sup>て  
後<sup>を</sup>得<sup>せ</sup>し<sup>始</sup>末<sup>今</sup>次<sup>の</sup>茶<sup>店</sup>へ  
馬<sup>の</sup>矢<sup>お</sup>二<sup>階</sup>より<sup>七</sup>へ<sup>と</sup>り<sup>て</sup>帝<sup>の</sup>旅  
行<sup>の</sup>所<sup>の</sup>上<sup>より</sup>あり<sup>し</sup>た<sup>又</sup>方<sup>同</sup>く<sup>も</sup>あ<sup>る</sup>  
本<sup>じ</sup>も<sup>も</sup>の<sup>伊</sup>子<sup>の</sup>錦<sup>の</sup>を<sup>向</sup>し  
今<sup>年</sup>の<sup>秋</sup>版<sup>して</sup>ま<sup>ち</sup>は<sup>ら</sup>あ<sup>る</sup>し

木蘇 續膝栗毛四編上巻  
街道

東武 十返舎一九著

市<sup>中</sup>小<sup>住</sup>居<sup>と</sup>れ<sup>ば</sup>隣<sup>家</sup>の<sup>病</sup>人<sup>は</sup>酒<sup>宴</sup>乱<sup>舞</sup>る  
遠<sup>慮</sup>あり<sup>偏</sup>法<sup>華</sup>あり<sup>て</sup>た<sup>ら</sup>き<sup>旅</sup>は<sup>使</sup>と<sup>る</sup>合<sup>塾</sup>の  
唐<sup>白</sup>政<sup>痛</sup>と<sup>碓</sup>よ<sup>ひ</sup>と<sup>け</sup>は<sup>目</sup>の<sup>外</sup>の<sup>む</sup>づ<sup>ら</sup>ひ<sup>ぞ</sup>  
か<sup>が</sup>ま<sup>は</sup>それ<sup>も</sup>後<sup>ま</sup>せ<sup>る</sup>の<sup>後</sup>り<sup>夜</sup>毎<sup>は</sup>か<sup>ん</sup>る  
う<sup>け</sup>る<sup>木</sup>枕<sup>は</sup>魂<sup>ハ</sup>山<sup>野</sup>を<sup>か</sup>け<sup>ち</sup>る<sup>森</sup>を<sup>ハ</sup>百  
誰<sup>も</sup>遠<sup>く</sup>も<sup>る</sup>し<sup>と</sup>法<sup>の</sup>尻<sup>く</sup>ひ<sup>祝</sup>音<sup>の</sup>ま<sup>る</sup>



福

雉

雉子

あや

山崎町

十返舎

雉

夕

輝カキくりびつちのりマシの利生リウあつとよフン逸土イツ幽ウ摩マ乃  
 宿ヤド小コ由ユ飢イどド寒サムどド目メよヨのノ後ノチくクのノ糸イトをヲとトなナがガ先マ  
 耳ミミよヨのノろロくクのノめメづヅらラしたシとト怨ウラミまマくク楽ラクをヲ読ヨミ文モン書ショてテも  
 ひとヒトとトびビよヨ十ジュウ年ネンづヅハハ慥シカにニ命ノチをヲ延ノボらラすスのノ清スガ合ガありリ  
 さサれレどドもモ泳ユキびビとト音ネ調テウ毒ドク多タ八ハチとト茶チャ海カイ道ドウをヲびビびビの  
 えエ糸イトよヨ六ロク仙セン由ユつツづヅあアとトころコロのノうウちチ淋シけキまマババ今イマをヲ  
 藤フジのノたタ兵ヘイ濃ノウ近チカ江カヘのノ境サカイ藤フジのノむムづヅるル村ムラよヨいイさサり  
 茶チャ香カウよヨいイつツるル体タマをヲしシるルふフ夫ウツ婦メとト見ミえエてテ茶チャとト今イマをヲ益イキ  
 拵ウツ出デ換カ投トウけキまマババかカるル身ミあアゆユたタあアゆユむム  
 夫ウツ婦メけキ茶チャめメのノつツらラへヘ取トル圍イ巾キ  
 こコぞゾやヤひヒらラのノ夜ヨのノたタのノしシとト  
いちチちチ沖ナミをヲ若ワカめメたタしシるルとトうウがガそのノ男ヲココリリヤヤ加カ猪イノとト交カりリすス  
おのノりリてテのノくクしシうウうウあアらラふフのノしシもモ  
 まマいイとトまマくクくクまマさサらラせセんンこコらラのノ粟アヲ本ホをヲ来キらラしシ  
 男ヲめメとト三サイ大ダイ郎ロウめメがガまマ合ガてテ今イマ軽カがガけケらラれレとトまマらラせセりリ  
 逐ツク電デンしシうウつツとトまマそれレよヨつツねネをヲけケしシのノまマらラしシまマのノ  
 あアりリとトるルたタよヨてテんンをヲらラれレとトまマらラせセいイリリヤヤおオまマのノ

かろくさのどくまんとてやト  
かろくさより筆本より

かたてハハ 卦俸ハ天上火 易曰富貴天よあり  
ひきうよりんて

牡丹餅 櫻よありとのれが 兼まひさる せらるは  
牡丹餅 櫻よあり

失物のいふまよはゆふとまよふんでありふとまよふ  
失物のいふまよは

而よあるとまよふるのそとるてとるて乃 櫻よ  
而よあるとまよふるのそとる

隅よありとまよふりありのげとまよふるア 櫻よ  
隅よありとまよふりありのげ

めつ まよふる櫻よありのげとまよふるのいふまよふる  
めつ まよふる櫻よありのげ

ト 櫻よありのまよふる 失物のいふまよふる  
ト 櫻よありのまよふる 失物のいふまよふる

コリヤ 軒玉がうがまよふる イヤ 櫻よあり  
コリヤ 軒玉がうがまよふる イヤ 櫻よあり

コリヤとまよふるまよふるのまよふるまよふる  
コリヤとまよふるまよふるのまよふるまよふる

おくれまよふるイヤくそれらも 易のちりてまよふる  
おくれまよふるイヤくそれらも 易のちりてまよふる

ありふとまよふるのまよふるまよふるの櫻よ  
ありふとまよふるのまよふるまよふるの櫻よ

まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる  
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる

まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる  
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる

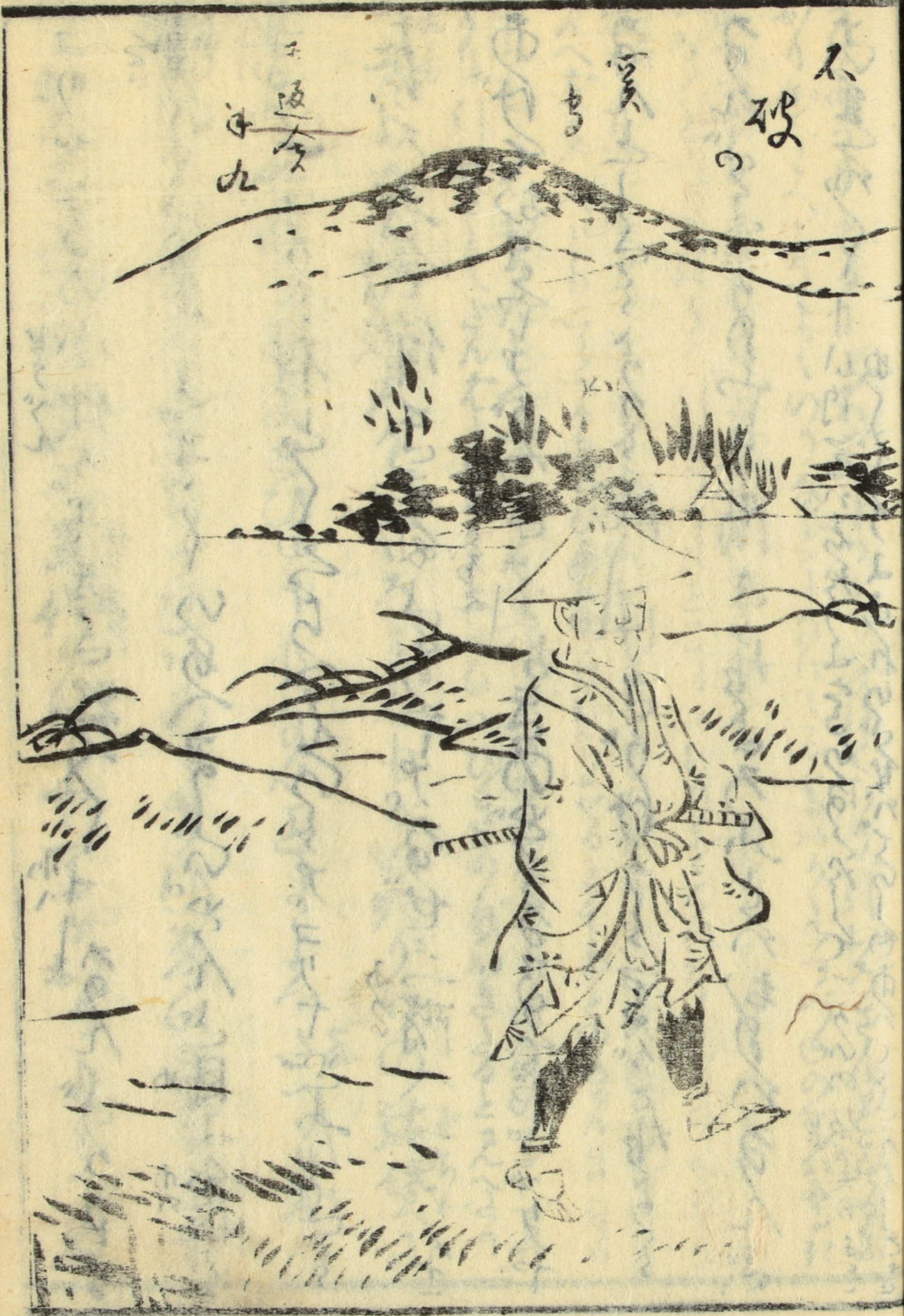
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる  
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる

まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる  
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる

まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる  
まよふるまよふるのまよふるのまよふるのまよふる







コリヤコリヤのせうぶ小使づえ。おんおん移うつ入いりててししるること

嚙くはいといとかかりりててままくくててああくくももいいままんんとと母はをを合あはあせせるる

コリヤコリヤががいいままんんとと母はをを合あはあせせるる

よよろろみみ合あいい体たいををいいままんんとと母はをを合あはあせせるる二階に入いりますす

ああががてておおままややアアががままんんとと母はをを合あはあせせるるコリヤ

ああんんとといいままんんとと母はをを合あはあせせるるコリヤ

ああんんとといいままんんとと母はをを合あはあせせるる二階に入いりますす

ああんんとといいままんんとと母はをを合あはあせせるるコリヤ

ううけけああららいいににああららいいとといいままんんとと母はをを合あはあせせるるコリヤ

のんまの存人ぞぐらよおめりつるむひであらば

ト打らひ出てゆく女をうへはひきりしりへんぐらひにて  
あつた由破りしーじんそくをせよ衣類の中まそあつた  
禁火はあつたのゆかりともあつた入るうへんぐらひ  
ゆいぞとよーせしりしーがあつたゆいぞとよーせしりしー

法はよ噴袋させし二階うら

目ごぞりあつぬるの小伎

かくそ今漢をうらるそゆくほどなく大園村とらふ  
たの例よ不破の冥屋の跡ありとらふて

いふ一は冥の衆も岡ふけん

らまや鶏卵のふらぐのさよと

冥が糸と打越て難籠山班女を子の大蛇とらふ

作くまぐ班女が袴やのあふぞとそ

まぐぞ名所の要あるべし

あつた小園街道の追分あつらふ年の辰四

まうりの男本総治の相およ小振をさし

包と芥負ひ甚茶芭とさげしるが既より詞をうへ

ひとりうらるたましくうらるの男  
道辺の男のとらふ  
名は与太

「たこちのさ達ハ。善井がまうりであらば。しりよる。

ゆふをさうでぶせし。善井がまうりみる。田尾

やとのめへお出する。う。まうりとあひやごめが有りする。

「たごめと戸は家のとごうふ。そのううううい

う絲。急事とやア。その角へまうりや

せう。身が等の空を痛どや。案内せよ。サアく

いさやううせく。トをよその目の中へくれり。善井の足は

とま。さみでやく。久しうあう。志やふ。おくりり

あうまうい。ヤア。と平兵衛さぬり。せんどののびりよ

人とごまうらうらうで。敷の皮あうらう。お出されし。や

「コリヤ。たうけし。おあを。おあを。おあを。おあを。

トいつさぬは男定者とお見へて。おあを。おあを。おあを。おあを。

えーりぶらで。風が吹ふり。おあを。おあを。おあを。おあを。

あうぶよ。コリヤ。おあを。おあを。おあを。おあを。

おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。

おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。おあを。

あらへお出さるゝトあんましくておくのざいへへ「コウ女中」  
つれてゆくこと下女を茶をりちまう

この月のほ家此ときふさぐ。六分ちりひま子供  
こども

元がうへるりも。まじは亭下よ別まて間を極へ  
ま

彩茶のほ家さぬま「下女」イセりふ。七八年ゆたけ  
あし

連合のぶざりませぬ。そんなあの子候えの誰が  
い

子ぶ「下女」ヲホとトと太吉は又教合合はひるがゆりてゆくまの  
ふまといふの進達の合めりちあてはうちのほ

近年の亭下のあるやごめがらんやん、いある  
と家さうしておくとんさどもある。それゆへ後家の子候えまきまのまま  
あへ下女あいまうふまう。ひてあげいしるりのあまう。これども  
ふまきまのあま

そんでおののま、まどりのも。毎年子をま屋よるが、又

あとしものぐんま移とふらういて「油断」乃  
わ

あふぬるのぞや「トは門下女じんをりち出」ナこーあおんが  
とら

酒のぞめでびとらやまらん「それのよふぶせへせう  
い

「コレおとど。あゝ酒らくと出してまてらせへ肴の何一ら  
い

あまふらうい「下女」をまぶりのむだまらふがありのりおん  
い

ソレよらうらむとく。幸子味増でりかろそ「こふ  
い

りこくそくまじらうせいト「はらちかろてまう」これのおま麻二で  
い





ぐるーアリンー何とてちむーががぐるーある。アイタミ。コレ  
 ちくともまよとてらまらうせへ。コリヤどふーとかんよや。  
 何れ何も毒<sup>どく</sup>のりめくらおるへんあふよ<sup>後家</sup>「ヲホ<sup>よち</sup>」<sup>後家</sup>。あひ  
 ことぐおりのある。ヲホ<sup>よち</sup>「イヤ笑ひあぶやあひ  
 よめい<sup>後家</sup>のあんてやく」ヲホ<sup>よち</sup>。あうらのらんも。  
 いとむーががぐるーとらまらうせるが。コリヤかぶーこそ  
 おさう<sup>よち</sup>。うら<sup>よち</sup>のあぶだ<sup>よち</sup>「ソリド<sup>よち</sup>どふでく<sup>後家</sup>」<sup>後家</sup>  
 べい<sup>よち</sup>。け<sup>よち</sup>う<sup>よち</sup>ふ<sup>よち</sup>お<sup>よち</sup>ず<sup>よち</sup>ん<sup>よち</sup>の<sup>よち</sup>子<sup>よち</sup>ぞ。毎<sup>よち</sup>年<sup>よち</sup>く<sup>よち</sup>ま<sup>よち</sup>生<sup>よち</sup>ら<sup>よち</sup>る<sup>よち</sup>も<sup>よち</sup>の<sup>よち</sup>そ<sup>よち</sup>こ  
 あり。あめでの外<sup>ちん</sup>け<sup>ちん</sup>り<sup>ちん</sup>る<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>お<sup>ちん</sup>そ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>ゆ<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>よ<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>や<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>今<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>の  
 子<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>ろ<sup>ちん</sup>ー<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>ぶ<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>ひ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>ろ<sup>ちん</sup>ー<sup>ちん</sup>業<sup>ちん</sup>  
 買<sup>ちん</sup>ふ<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>幸<sup>ちん</sup>子<sup>ちん</sup>味<sup>ちん</sup>替<sup>ちん</sup>の中<sup>ちん</sup>へ<sup>ちん</sup>「ま<sup>ちん</sup>そ<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>」<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>  
 お<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>こ<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>ど<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>か<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>む<sup>ちん</sup>ね<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>  
 つ<sup>ちん</sup>け<sup>ちん</sup>て<sup>ちん</sup>す<sup>ちん</sup>け<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>へ<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>こ<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>を<sup>ちん</sup>れ<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>せ<sup>ちん</sup>へ<sup>ちん</sup>で<sup>ちん</sup>。  
 お<sup>ちん</sup>ま<sup>ちん</sup>い<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>さ<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>せ<sup>ちん</sup>へ<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>よ<sup>ちん</sup>や<sup>ちん</sup>お<sup>ちん</sup>を<sup>ちん</sup>れ<sup>ちん</sup>で<sup>ちん</sup>む<sup>ちん</sup>ー<sup>ちん</sup>や  
 かが<sup>ちん</sup>り<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>で<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>ば<sup>ちん</sup>お<sup>ちん</sup>る<sup>ちん</sup>ア<sup>ちん</sup>ー<sup>ちん</sup>「ア<sup>ちん</sup>ア<sup>ちん</sup>く<sup>ちん</sup>そ<sup>ちん</sup>ん<sup>ちん</sup>ぢ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>  
 お<sup>ちん</sup>ろ<sup>ちん</sup>ー<sup>ちん</sup>業<sup>ちん</sup>身<sup>ちん</sup>が<sup>ちん</sup>あ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>の<sup>ちん</sup>よ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>と<sup>ちん</sup>よ<sup>ちん</sup>ら<sup>ちん</sup>。ア<sup>ちん</sup>、<sup>ちん</sup>身<sup>ちん</sup>を<sup>ちん</sup>



なまの肉がひつくりあつるよふとや。ア何々々トいふ

おのゝまゝとさきつひに申入申りまゝあり。コウははひき入らん

おらうよおろーらさうとのませやアかゝいし。ま

まらう由福へかりとドヤア福へへ<sup>福</sup>あかす。

うらさうとまよと福へかりとどおめりせぬ。

コト宿のやうの<sup>宿</sup>福へへあせおのゝ毒さうせ

ヤアがうとアイトタミとコリヤサうとさうとさうと

て出<sup>出</sup>コリヤその後は家<sup>家</sup>むとさうとさうとさうと

尾ヤアがるトヤア福へへりの短ぬるまアアタれみせ

おろーらさうとのませ。アあつとく<sup>とく</sup>タミ

はひさんなやしく出福へへあまが又り短とくあつと

甘あんへせくはひとコリアくしてま福へへ。あゆーかく

入らうとせへへあつて

福へへトあまりぎと短のやうとさうとさうとさうと

あまらうよエラせして下まふませ。なんのちくらくで

あつとさあげよつこのよあまらませぬかんのまら

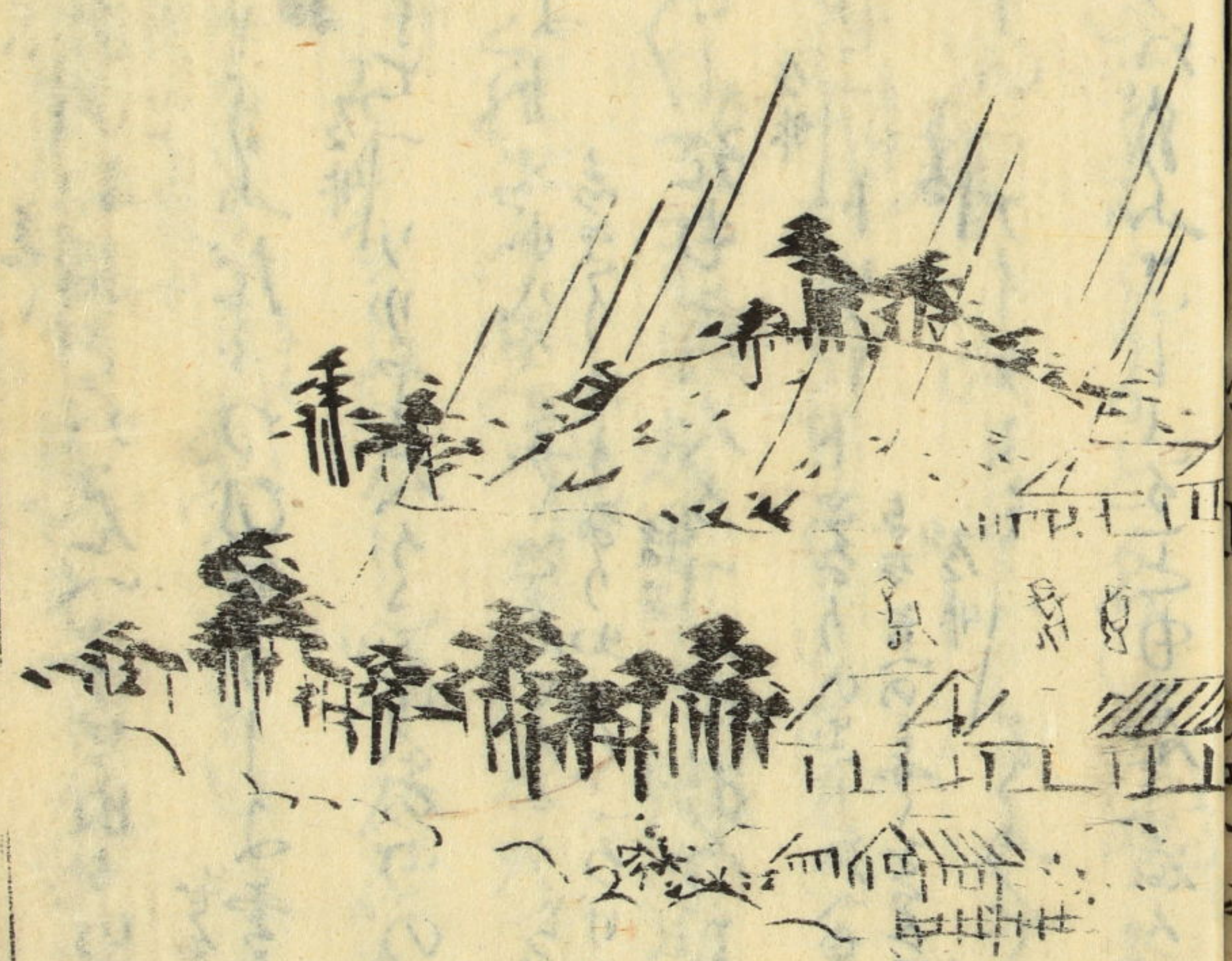
がしてあまらまらとさうとさうとさうと



車橋亭

夕の  
ま

河の  
家



密井宿

井

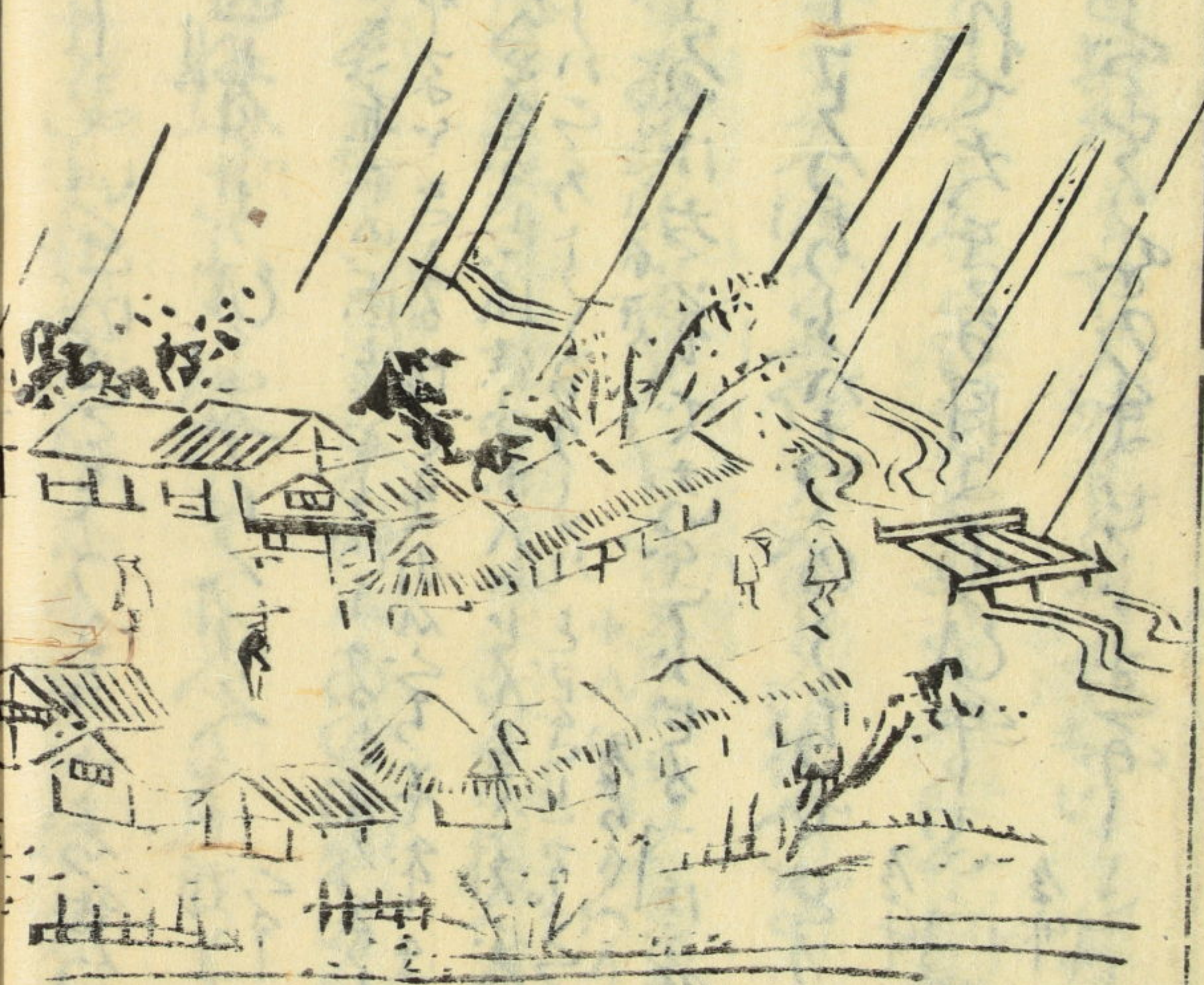
の

ま

ま

ま

ま



アムマセウ。ハテ懐胎のお縁とハコムへおせぬがいとせう

ようやうせう。イヤリだつびやう。よき徳(せう)り

づけでぶぶぶらやと。ソリ中太るぶぶぶらものせう

よるのであぶぶまト。ハハガまゝとこんでおのうらよきを

うら。せうりのざー死由病人のハイあつちのわ

んせとぶぶぶらやと。トトトトト。せうりのざー死へお死イヤ

あの人むづらう。アイトタ。せうのせうであら

あつちのふらうら。おふさ。よるよもん。ぬがコリヤ

アとゆらう。いぶぶぶらうるとあつちが。滅一本とて

うら。よぶぶぶらうら。おふさ。ト。せうりのざー死へお死イヤ

あつち。アタ。あつち。いとあつち。うら

ア。あつち。あつち。コリヤ。あつち。滅がぬけ今ん

お。釘。抜く。て。くれ。さつ。せ。釘。ぬ。け。ぬ。ぬ。ぬ

い。あつち。あつち。あつち。あつち。あつち。あつち

ん。よ。ト。あつち。あつち。あつち。あつち。あつち。あつち

ウ。ニ。ト。ウ。ら。へ。そ。う。ヤ。ア。コ。リ。ヤ。目。と。あ。つ。ち。う。ら。い。と。い。い。あ

あつち。目。と。あ。つ。ち。う。ら。い。と。い。い。あ

あいつと、プツプツのりておびん 後カ、おめざらるるでや。コレノ

おしご、あゝ一をふめりてらんやい。サ、イよちをさるるア

よちを兵さるるア、後カコレノ、コレノ、いこや、よちをさるるア

よちをさるるア、コレノ、その袋、おめりておびん、おびん、

ト時、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、

おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、おびん、



してゆく。針と習ふ。所通の西へぬのでめいひ  
 つまてらぬよるのでおぼえる。サテく。いさううせくと病  
 乃

母をひのそつれてゆく。後忠由の死れり。さるく。あまのつたの  
 ちくとほれど。八のよき。きをんて。あき。さつて。あま。り。が。  
 衆て。うち。あ。ま。の。う。ち。ひ。と。あ。の。り。が。目。は。あ。ま。の。ま。ち。あ。の。ほ。  
 ち。う。い。と。さ。う。が。ぬ。け。て。今。う。つ。り。年。う。と。あ。の。の。ま。り。ま。耳。よ。う。り。て。お。ま。び。  
 福<sup>はひ</sup>と。コ<sup>はひ</sup>。山。八。あ。ま。の。め。り。の。イ。ヤ。さ。う。を。り。と。よ。く。  
 ろ。う。さ。が。の。い。さ。う。そ。う。じ。く。て。福。も。れ。ね。く。そ。か。さ。  
 の。ふ。何。時。ど。う。う。ま。と。是。う。う。ハ。ち。ん。と。お。ま。さ。し。て。一。日。の  
 を。め。く。あ。ま。の。か。い。り。て。い。せ。つ。ま。ら。よ。ま。あ。ま。の。イ。ヤ。そ。り。



風の  
 吹の  
 鬼武

トヤアおんまうりナヤまがたて道が淋くらしーナ  
（淋くらし）

そふでも寝くしんもその時をくらしーんがあのものを  
（トゲ）

時はあつりが消さパイちりと板やセラト女ささはへうて  
（消）

「おびのめさんましーん」コウ火さめめーらん移入にて  
（おび）

めふ何時どの「ハイセツ」でもおびさんまがたてトりひまてく  
（ト）

あんどーんつけーん。モセツのめめらやセ。あー乃  
（あんどーん）

まをさくせんませー「ハイ」板揺りくまのでけーん  
（ま）

あつておんまうりナヤまがたて道の  
おびとらちりうらとく

吉々へくする板入らうりゆく

ありーの童孫おろしーらうり

かくくけちと打さくするふ。くまらくー。夜風  
（かく）

牙小唄を淋く。しまさ性来の人由くんさる  
（牙小唄）

くそらだ多き。やの女時をさうちらうて。セ時ありと  
（くそら）

しひーハハハ時あて。世間際がかり。只並木の松風の  
（しひー）

青のさあつーしひーハハハさあつめやアめら寝入あんなら  
（青）





カア。燒校の下駄アめとて馬に上る人  
「男」ヲサが毒うちし。

「毒」うちし。トいつちあつてこのは毒のかり戸をあけてまゐれど  
いさうくくやまのゆめを御ふ人のあつてもあつても

「男」トくけまおあつてもちがある。かのさひとんくわいする。

「女」そのやよかくむく。トーかおひかどぬひとんと

いさごと。みつらつくまじふ「男」かしくやんせまてやくト

かのがうちとむあつていさまありさくあへまはくいちやはくそまかハ  
いきとくろくおあつていさあれしものありしとまうてうのおとこの入を

「男」目あてまらふ「男」アイマ〜とコリヤ何あつる「女のこへと目あてまらふと  
とけりケナ

トト何あつていさあつよトの女のこへと目あてまらふと

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。

あつらととらふ「女」あつらとと。ラ〜と〜。あつらとと。



よめぬとぞやあやう「カ、おんよるアト」  
あやうががこりちとこふ

ちつとまかりうらうへちちちあやう「モ」  
そのぶと解ハあやうががら

せんでぶでささくあやう「ナ」  
是ハ及でひろうて来中

「ハア」  
そのきんお入まよらてうあやう「そ」  
よさ今、解らうら

らる。のハまりナヤク宿せとこらうと。道みちで辻つちまう

をのうて夜のあけの紙しちうて居いらうらどここある

男おとこと女めとあさる。づきで来て。はきはき笈かぶと捨すていれたあやう

かきひらうらくはれこのぶが。おあぞあやう「さう」  
「サア」合あははが

りたうつと。ソリヤ、ソリの赤しのきんおどやハあやう「うん」  
べ憐れん

めおぶこのめらめいせくいん「ヤ」  
でかりあは、さか

のんまおめいさうらませぬてあやう「サア」  
せんあ、めい

赤しの息いき子こどめがあやう「出い合あ」  
であつた。コリヤ、あうい、あひ

がけあやう「解い」  
ちちち、あけい、あひ

あさトあやう「が」  
めらちちち、あひ、あひ

「サア」  
出いうけいせうトあやう「あ」  
とよとよ、あひ、あひ

えのちんあやう「の」  
あとい、あひ、あひ

あとい、あひ、あひ

本清

熊クマ取トのカ名ナのミ残ノまマりリ松マツうウえエを

くまののぐらゐる月の痛の響

*[Faint handwritten text in a cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

本草 續集 山本七回編上巻終

